

学林だより

Vol.

108

2020.4

Contents

- | | |
|------------------|------------------|
| 02 専攻科修了・卒業 告辞 | 17 全国高専デザコン・フレコン |
| 04 祝 卒業・修了 | 18 クラブ活動等の結果 |
| 14 卒業生・修了生の進路 | 20 TOPICS |
| 15 学生会 | 23 退職者挨拶 |
| 16 全国高専ロボコン・プロコン | 23 新任教職員紹介 |



福島工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Fukushima College

第15回専攻科修了・第54回卒業 告辞



福島工業高等専門学校長

山 下 治

修了生・卒業生諸君、
修了・卒業おめでとうござります。

この度は、コロナウィルスの感染が世界中で広がる中、台風で中止となった磐陽祭のこともあり、卒業式の挙行をぎりぎりまで模索しておりました。しかしながら、いわき市内にもコロナウィルス感染者が確認されたことを受け、卒業式を中止することに致しました。卒業式を楽しみにしていた修了生・卒業生、ご家族の皆様には、その期待に応えることができず、改めてお詫び申し上げます。

さて、この度、本校を卒立つのは、専攻科の、産業技術システム工学専攻22名、及びビジネスコミュニケーション学専攻2名の専攻科修了生計24名、その内、復興人材育成特別プログラム修了者7名、並びに、本科生として、機械工学科40名、電気工学科41名、物質工学科36名、建設環境工学科36名、コミュニケーション情報学科37名の計190名です。

修了生・卒業生の諸君、諸君がこの度卒業・修了を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、精進を重ねてきた結果であり、やり遂げたことにまずは自信を持ってほしいと思います。と同時に、諸君が晴れてこの卒業・修了を迎えることが出来るのは、ご家族の愛情と援助、教職員の熱心な指導のお陰であります。諸君を育んでくれたすべての方に、感謝の気持ちを持って頂きたいと思います。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日、御卒業のお子様を、このように立派に育て上げられましたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、これから皆さんができる社会は、「超スマート社会」であります。これまで人間が手掛けてき

た仕事がAIやIOT技術に取って代わられるのではないかとも言われています。私は、人間には各々「意志」があり、皆さんがなすべき仕事はなくなることはないと思います。ただ皆さんのがこれから的人生を生き抜くためには、「正しい意志」に基づき、「正しい選択」をすることが重要です。本日この場をお借りして、皆さんに心がけてほしいことを三点申し上げます。

まず一点目ですが、本校の学習教育目標冒頭にもあります「持続可能な社会」を構築するという目標を持ち続けるということです。これは、今までは環境、経済、社会の様々な面で持続不可能になってしまった私たちの社会を、「持続可能な社会」に変えていくという考え方です。現在、国連は、SDGs（サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ）と言われる、2030年までに達成すべき17の目標を掲げています。これらは、一国だけではなくて、人類全体が、豊かに、かつ幸せに暮らし続けていくための方針となっています。

皆さんには、世界中の人々の共有の価値として位置づけられるこの概念を、よく理解し、迷ったらこの方針に沿って考える。そのような姿勢を保ち続ければ、多くの人が支持する正しい道を進んでいくものと思いますので、ぜひ心がけてください。

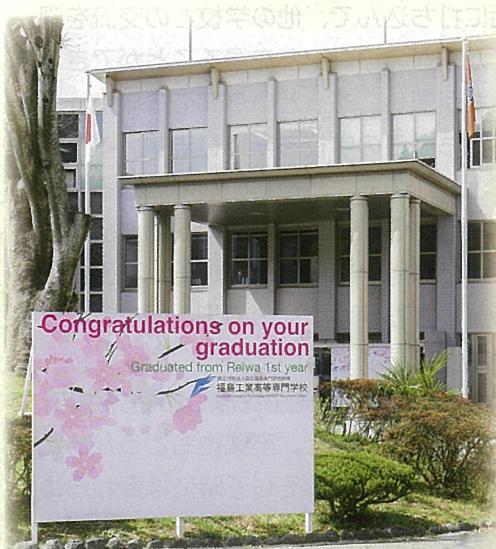
二点目は、問題解決の手法であります。私が大学生の時出会った「道は開ける」というアメリカの作家のデール・カーネギーの本から紹介をします。要約すると、問題解決のためには、①事実の把握、②事実の分析、③決断そして実行、の三段階が必要である。そして、事実の把握のためには、第三者の立場で、冷静・公平な観察をする。事実の分析にあたっては、悩んでいる事実（論点）や自分ができること（選択肢）をすべて書く。③決断にあたっては、正しい判断（選択）をする。という記載があります。正しい判断をどうするかは、これからも磨いていく必要がありますが、皆さんには、これまでの人生や福島高専で培った知識、経験、相談できる仲間、そして人類共通の方針SDGsがあります。これらを通じて正しい道を選択してください。

卒業生代表挨拶

「言うは易く行うは難し」、なかなか実践するのは困難です。前例や周りの人のアドバイスに従うのも道ですが、本格的な悩みに当たったときは、じっくり三段階を踏んで考えてみてください。「道は必ず開けます」。

三点目です。皆さんのルーツである故郷（ふるさと）福島を忘れないでください。グローバルな人材になるためには、世界的価値観を持つことはもちろんですが、自らのルーツを大事にできない人は信頼されません。いいかえれば、自分の故郷や我が国日本を説明できることがグローバルに活躍する礎であることを心がけてください。東日本大震災から、9年が経過しました。しかしながら、福島の復興はまだその途上にあります。福島から離れる諸君も多いと思いますが、いつか地元の復興・発展に貢献していくという気持ちも持ち続けて頂きたいたいと思います。

最後に、高専の教育は裏切りません。自らに自信を持って、自らの「意志」を実現してほしいと思います。諸君のこれから的人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。



卒業生代表　團野　美月

柔らかな春の日差しの中、桜のつぼみが膨らむ季節となりました。今年もまた、温かく、そして優しいいわきの春がやってきます。卒業生を代表してご挨拶申し上げます。

新型肺炎の感染拡大の影響により、卒業式はあいにく中止となりましたが、本日晴れて卒業の日を迎えて戴きましたことは、諸先生方、保護者の皆様、ならびに関係者の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

5年間の学生生活を終え、今日、卒業という節目を迎えました。入学式の日の朝、憧れていた高専生活を始められることに、胸を躍らせていたのを今でも覚えています。ですが、電気工学科の高専生活はそう甘くはありませんでした。自己紹介をするたびに「え？ コミ科じゃないの？」といろんな人に言われました。中学校を卒業する時、私は立派なエンジニアになってやるという思いで、高専の電気工学科へ入学しましたが、まさか自己紹介するたびに電気科であることを疑われるとは思いもしませんでした。その後も、寝る間もおしんで挑んだ定期試験に課題、レポートなど卒業するためにクリアしなければならない課題がたくさんありました。そのおかげで、クラスメイトとも、打ち解けることができたと思います。朝から晩までクラスメイトみんなで頑張った創作実習はとくに良い思い出です。大変なことも多くありましたが、もちろん、楽しいこともあります。運動部を筆頭に、胸を熱くした体育大会や、みんなで全力はっちゃけた前夜祭。クラス内でもめることも多々でしたが、どのイベントも本当に楽しくて、笑顔溢れる思い出となっています。

このようにたくさんの思い出がある5年間を共に過ごしてきた仲間との別れに、寂しさを感じずにはいられません。ですが、本日190名卒業を迎えたことを誇りに思います。担任の先生をはじめとした諸先生方、家族、すでに卒業された先輩や来年度からも高専生として活躍する後輩たち、そして5年間をともに過ごした仲間たち、私の高専生活はみなさん支えられていたからこそ、今日卒業することができるのだと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、母校の今後益々の御発展と校長先生、諸先生方、そして在校生の皆さんのご健康とご多幸をお祈りして、卒業生代表の挨拶とさせていただきます。

機械工学科

Department of Mechanical Engineering



おめでとう、そして、頑張れ！

機械工学科5年担任 篠木 政利

卒業おめでとう。

3年生から皆さんの担任として同じ時を過ごしてきましたが、途中で若干の出入りがあったものの、ほぼ同じ顔ぶれで卒業式を迎えることができ、非常に喜ばしい限りです。5年間という長い間、機械技術者となるために学んできた知識はもちろんですが、苦楽を共にした級友は高専でしか得ることのできない大きな宝物だと思います。是非大事にしてください。

さて、これから進学する人、就職する人と進路は様々ですが、高専の本科を卒業した皆さんは新しいフィールドに立った時、機械技術者としてこれから学ぶ必要のある事の多さに驚くことでしょう。高専での授業は過密で過酷ではありますが、それでも皆さんが習得した専門知識は基礎的なことが多く、そのままでは社会に通用しません。しかし、恐れる必要はありません。高専のカリキュラムを乗り越えた皆さんであれば、さらにステップアップすることが可能であると確信します。頑張ってください。

想い出

機械工学科5年 川音 裕也

福島高専に入学してから5年が経ち、振り返ってみるといろいろな思い出が頭の中に蘇ってきます。文武両道に力を入れるこの学校の教育方針から、クラス対抗の体育祭がすぐに行われ、いろんな学校から集まってきた私たちは一気に「仲間」になることができました。自分自身に照らして言えば、部活に打ち込んで、他の学校との交流を深めることでかけがえのない友を得ることができました。部活も引退し、あっという間に5年生。もうすぐ、私たちはこの学校を卒業します。本音を明かしますと、この先、私たちの前に広がる世界を見て、不安もある一方、期待に胸を膨らませわくわくするような思いもあります。そして困難にも勇気を持って立ち向かうための矛と盾をこの5年間で得たような気がしています。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方、本当にお世話になりました。卒業後もどうかあなたが見守ってください。そして時には変わらぬご指導をお願い致します。



5年間で得たものは？

電気工学科5年担任 豊島 晋

卒業おめでとうございます。

皆さんにとって、この5年間はどのようなものだったのでしょうか？入学時の目標は達成できましたか？この5年間で何が得られたのでしょうか？新しい道を進む前に自身の5年間を良く振り返ってみてください。例えば、「手書きでなくても…」と思いながら書き続けた実験レポートも無意味なものではなく、自身の捉え方一つで有益にも無益にも成り得るものです。この5年間の積み重ねから何を得たのかは人それぞれ違いますが、進学や就職問わず、これから先を生きていくために大切な力になるはずです。

これまで高専のシステムによって手厚く守られていた状態でした。これから先は自分自身が責任をもって行動を決定していくしかありません。どのような道でも人に迷惑をかけない範囲で、自分の意思で責任をもって行動するようにして下さい。そして、新たな時代を切り開いていく人材として活躍してくれることを期待しています。

一期一会

電気工学科5年 加藤 大貴

5年前に初々しい制服姿でこの福島高専へ入学し、その頃には想像もできなかったスーツ姿での卒業を迎えることに驚きを感じています。

入学当初、高専は5年間と長いことや、レポートが大変であるといった印象から学生生活に不安を感じていました。実際に3年生の頃には週にレポートがいくつも重なり、今でもそれを乗り越えられたことが信じられません。それでも体育祭では皆で団結して盛り上がり、文化祭でのビデオ上映では優勝を勝ち取ったことなど沢山の思い出を残すことができました。また、定期試験の時にはわかる人が率先して教え、わからない人が遠慮せずに質問できる、これが当たり前のように思えるのもクラスの皆がお互いに助け合ってきた証であると感じています。

最後に、クラスメイトと三男先生、豊島先生への感謝を忘れずに、これからも人とのつながりを大切に歩んでいきたいと思います。5年間本当にありがとうございました。



ひとをおもう

物質工学科5年担任 尾形 慎

僕が30代になって手に入れた“ひとをおもう”という気持ち。もう少し言葉を補うとすれば、“大切な人のために何かをしてあげたいとおもう気持ち”というと自分の中では結構おさまりがいい気がする。このような、不思議な感覚に直面して思うのは、大切な人に対して何かプラスの効果を与えられるだけの人生を歩んでいるかという自問自答である。一般的には、これを努力とか経験などという言葉で置き換えるのかもしれないけれど、少なくともこれらは学校で教わる努力や経験だけでは十分ではないよう思う。僕自身、未だに自信も確信もない中で自己研鑽する毎日だけれども、“多くの人と出会い、日々楽しく前向きに好きなことに邁進し、自身の幸せを追求する”ことが自分以外の人を思いやれる一番の近道のような気がしている。

2017年の春に皆さんと出会い、そして皆さんは、私にとって大切な人になりました。至らない点も多々あったかとは思いますが、3年間本当にありがとうございました。皆さんの今後の幸せを心より願っております。ご卒業おめでとうございます。

人生の4分の1

物質工学科5年 上野 純奈

高専に入学してから、勉強に部活に趣味に忙殺された日々を送って、早くも卒業が目前になりました。高専生活を振り返ると、大変な試験やレポートや実験が多く、時には徹夜をしながらも乗り越えてきたので、何事にも語力する力が付いたのではと思っています。

5年間、クラスメイトとは常に切磋琢磨し合い、お互いを向上し合えるかけがえのない関係性を築くことができました。貴重な人生の1/4を一緒に過ごしたのがみんなでよかったです、みんながいたからこそ楽しくて充実した高専生活を送れたのだなあと改めて実感しています。

辛いことも楽しいこともたくさんあり、決して短くはなかったけれど、あっという間だった5年間。私たちは確実に成長することができました。これまでの経験・知識を活かし、今後も精進していきます。

最後になりますが、今までご指導・ご鞭撻くださった先生方や支えてくれた家族に心から感謝しています。



卒業おめでとう

建設環境工学科5年担任 高荒 智子

卒業おめでとう。3年前、東京オリンピックパラリンピックはまだまだ先と思っていたら、あっという間に時間が過ぎてもう2020年です。皆さんの卒業の年となりました。これまでいろいろなことがありました。明るく元気な皆さんのお陰で本当に楽しい3年間を過ごすことができました。

振り返ると、教室で皆さんにお話しした内容の多くは、進路に関する事だったように思います。「社会人としての先輩である家族の話を聞いてきなさい」と宿題を出したこともあります。様々な目線から自分を見つめて、将来どんな風にして力を発揮したいのかを自分自身で考え抜いてほしいと思っていました。皆さんが自分で出した答えは、これから先、「初心」となって皆さんの中にずっと宿ることでしょう。そして忘れたころに現れて、選択を求められたときヒントをくれたり、自分を見失いそうになったときは道しるべになることでしょう。どうかその純粋な「初心」をいつまでも忘れないでいてください。

これからは、それぞれの道で、それぞれのやり方で前に進んでいきましょう。応援しています。

私がここでもらったもの

建設環境工学科5年 高橋 晃樹

建設環境工学科で過ごした日々も、早5年の歳月が経ち、気が付けば私は、この学び舎から、本当に多くのものをもらっていました。

まず、熱心で丁寧な学びをもらいました。先生方の授業は面白く、分かりやすいものばかりで、本当に楽しい時間でした。先生に学びをもらえたことに、心から感謝いたします。

次に、大切でかけがえのない仲間をもらいました。明るさは先生のお墨付きで、寝坊と笑顔と赤点の絶えない皆に出会え、その一員になれたことを、本当に嬉しく思います。

そして最後に、そんな皆と過ごした、一瞬で、けれど確かに残る思い出をもらいました。先生と笑った授業や、仲間と笑った放課後、何気に緊張ばかりの階段教室など、その全てが、私にとって、最高で、大切な思い出です。

皆にもらったものを胸に、新しい生活でも楽しめたいと思います。最後に、これまで支えてくれた家族や先生方に改めて感謝し、挨拶とします。本当にありがとうございました。

コミュニケーション情報学科

Department of Communication and Information Science



はなむけの言葉

コミュニケーション情報学科5年担任 安部 智博

ご卒業おめでとうございます。皆さんと私はほぼ同じ時間を福島高専で過ごしています。私が本校に着任したのは皆さんが入学する7か月前です。初めて担当した推薦入試は皆さんのもでした。初めて担任として受け持つクラスも皆さんでした。縁とは面白いものです。楽しかったこと、悲しかったこと、つらかったことなどいろいろありました。学年学科行事で2年連続東京へ行ったこと、毎年桜の木の下で写真を撮ったことなどとても良い思い出です。卒業後はそれぞれの道で、本校での経験を活かしつつ自立自存の気持ちを持って歩んでいかなければなりません。これから的人生でも、楽しいこともあればつらいこともあります。どうしてもつらい時は、本校に立ち寄ってください。もちろんつらくない時でもかいませんが。最後に、皆さんがそれぞれ自分の道を創りつつ、金ぴかのままで歩んでいくことを福島高専から応援しています。今までありがとうございました。

過ぎ往く思い出

コミュニケーション情報学科5年 斑目 遥斗

2015年4月2日の朝食は何だったでしょうか。昨日の朝食は思い出せるのに、まるで昨日のようなその日の朝食は思い出せません。その日、私たちは高専に入学しました。「5年間やっていけるだろうか」なんて考えていたのに、気づけばもう卒業です。一瞬で駆け抜けていった5年間でした。この5年間は、決して楽しい事ばかりではありませんでした。時には勉強に追われ、時には友達と喧嘩をし、多くの辛かった思い出があります。入学するときに抱えていた期待を裏切られることもありました。しかし、教室で勉強を教え合った日々、テスト明けの開放感、友達と一緒に食べるラーメン、多くの楽しかった思い出があるのもまた事実です。

クラスメイトの皆へ。この先辛く苦しいときもあるかもしれません、これからも頑張っていきましょう。最後に、高専で出会ったすべての先生方と友達、高専に5年間通わせてくれた両親へ心から感謝します。本当にありがとうございました。

生産・情報システム工学コース



これから君たちへ

生産・情報システム工学コース
コース長 鄭 耀陽

専攻科修了おめでとうございます。

諸君がこの学び舎から巣立っていくことは、大変な喜びでもあり、教員としては少し寂しいですが、これから各自が社会で活躍している姿を思うと、心が熱くなります。

人生には本意なことも、不本意なこともたくさんありますが、まずは目の前のことを一歩ずつ、着実に歩いてください。振り返って見れば、不本意なことも案外良いことの前触れになっていたかもしれません。

されど、高専で7年間努力し続け、修了できた諸君は、これからどの世界へ進もうとも必ず困難や逆境を乗り越えられると信じています。

話が少し変わりますが、高専で教わる教科は実学であり、社会に出れば直接役立てる科目は多いです。しかし、社会に出るということは、人間としても成長しなくてはならないということもあります。各自せひとも教養も深めて、人としての「深み」を高める努力も勤しんでください。

高専生活を振り返って

生産・情報システム工学コース
2年 雲藤 篤道

福島高専に入学してから7年が経ちました。この7年間の間に多くのことを学び経験することができ、学習面だけでなく人間面でも大きく成長することができました。

本科では、授業や実験、実習を通して電気工学に関する様々な知識を身につけることができました。専攻科に入ってからは、これまでの電気工学の知識に加えて機械工学などの電気工学とは直接関係ない授業も学び、より実践的な知識と経験を得ることができました。これまでに得た知識や経験は高専でしか得ることができないかけがえのないものだと思います。また、共に支え合える友人と会えたことにより、充実した楽しい学生生活を送ることができました。この7年間の経験を糧に社会人として大きく羽ばたいて行きたいと思います。

最後になりますが、学業は勿論のこと研究や就職など様々なことを熱心に支えてくださった先生方に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

エネルギーシステム工学コース



専攻科修了のみなさんへ

エネルギーシステム工学コース
コース長 伊藤 淳

今年もまた季節がめぐり、専攻科修了生を送り出す季節を迎えました。みなさんが様々な分野で活躍することへ期待が膨らむ一方、わかれゆくことのもの悲しさを感じています。

本科での5年間に加え、専攻科での2年間の、高専での生活はいかがだったでしょうか。様々なことが想い浮かんで来るのではないでしょうか。より専門的な学問に接し、インターンシップでは社会人の雰囲気を味わい、学会発表では、研究者の厳しさを体験するなど、専攻科での様々な経験を通して、幅広い知識と教養を身につけ、心身ともに大きく成長したものだと思います。

いよいよ、新しい環境で新生活を始めることがあります、ますます自主性や責任ある行動が求められるようになります。また、いくつかの困難に出会うかもしれません。本科と専攻科で培った知識と経験を活かし、困難に打ち克ってください。皆さんの未来が幸せで素晴らしいものであると願っております。

専攻科修了おめでとうございました。

7年間の感謝

エネルギーシステム工学コース
2年 広瀬 陸

この学校に来て最もよかったと思うのは、素晴らしい人たちに会えたことです。

まず、友人です。本科5年間はお互いに切磋琢磨した一生の付き合いになるであろう素晴らしいクラスメイトができました。専攻科2年間では学科の垣根を越えて様々な学科の人と関わることで知識の幅が広がり、いろいろな角度から物事考えられるようになりました。

次に学校の方々です。先生方にはいつも親身になって話を聞いていただき、新しいことに挑戦しようとしているときや不安な時に大変お世話になりました。ありがとうございました。実習や研究では技術職員の方々にも大変お世話になりました。また、事務職員の方々にも書類の手続き等の際大変お世話になりました。友人、先生方、様々な人たちに支えられて思い出に残る7年間を過ごすことができました。ありがとうございました。ここでの経験を生かして今後も常に成長し続けられるようにしたいと思います。

化学・バイオ工学コース



初めが大切

化学・バイオ工学コース
コース長 梅澤 洋史

専攻科修了おめでとうございます。

みなさんは本科を含めると福島高専で過ごした7年間で勉学だけでなく、学校生活・行事や卒業・特別研究を通じて友人や教員とのコミュニケーション等多くのことを学び習得してきたと思います。ぜひ、これから的人生に役立てていってほしいと思います。

就職する人はこれから社会人として社会に対して責任を果たして行くことになります。若いうちは失敗しても大目に見てくれますから、何でも先輩や同僚に相談してどんどん仕事を身に着けてください。仕事だけではありません。決して無理をしそぎず、だけどいろいろなことにチャレンジしてみてください。

大学院に進学する人はおそらくこれまでと環境が大きく変わり、ますます自主性が重んじられるようになります。自らを律し、夢に向かって行動してください。

就職する人も、進学する人も初めは精神的に多くのプレッシャーを感じることだと思いますが、早く信頼できる先輩や友人を見つけ新しい環境に適応していってください。そして、初心を忘れないでください。

皆さんのこれからのご活躍を期待しております。

圧倒的感謝

化学・バイオ工学コース
2年 加藤 陽香

卒業間際になってまさか自分が学校だよりに掲載する原稿を書くことになるとは思いませんでした。自分の学校生活を振り返ってみると、なかなか充実したものだった様に感じます。日々と共に過ごした同輩や、部活動で一緒に演劇を創った先輩後輩、授業や研究にて真摯に指導してくださった先生方と、周りに恵まれた7年間でした。専攻科では同じコースで女1人ということもあり、気を遣わせてしまう場面も相応にあったと思いますが、気さくなクラスメイトに助けられついていくことが出来ました。元来怠け者で、向上心に乏しい私が頑張れたのはひとえに支えてくれた方々のお陰です。卒業後は県外の企業で働くことになりますが、福島高専で学び培った技術や知識、モノづくりに取り組む精神を土台として、実りある生活となる様に励みたいと思います。最後に、今までお世話になりました諸先生方、友人、そして両親に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

社会環境システム工学コース



福島高専専攻科修了生として

社会環境システム工学コース
コース長 菊地 阜郎

社会環境システム工学コースの皆さん、修了おめでとうございます。

高専生活という小学校生活よりも長い時間をこの福島高専で過ごしてきました。

入学時に描いた未来予想図は完成図となり、ここから飛び出して、新しい社会という地図を進むための羅針盤を手に入れたでしょうか。これから人生という航海を進むにあたって、順調なことばかりではなく、困難なこともあるかと思います。そんな時は高専生活という経験の積み重ねと出会いが方位を示してくれることでしょう。

大学とは一味違う高専専攻科というバックグラウンドを持って、世の中に行くということはいろいろな意味で評価されることが多いと思います。この評価はもちろん皆さん個人の評価ではありますが、それは福島高専専攻科の評価でもあるといえるでしょう。福島高専専攻科修了生として、オシリーワンの存在となれるように社会で活躍されることを心から願っています。

高専での日々を振り返り

社会環境システム工学コース
2年 若宮 楓矢

本科での5年間、専攻科での2年間という7年にも及んだ福島高専で過ごしてきた日々が修了を迎えようとしています。

この7年間の毎日は、楽しいとき、苦しいとき、驚いたとき等、様々な日々の積み重ねがありました。友人たちと遊びに出かけた日、本科でのテスト前に皆で集まり勉強会をした日、本科・専攻科での研究に取り組んできた日々等の多くの出来事がありました。今思い返してみると、楽しいことだけでなく、困難なことや大変なこともあります。しかし、その度にどうすればその問題を解決できるかを考え、友人たちとともに困難を突破していくことができたことは良き経験にもなり、友人たちと何かをすることに楽しさも感じていました。これからは社会人として、今までの経験や思い出とともに頑張っていきたいです。

専攻科修了を迎えるにあたり、お世話になった先生方、友人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。7年間、本当にありがとうございました。

ビジネスコミュニケーション学コース



社会にでるみなさんへ

ビジネスコミュニケーション学コース
(専攻長) コース長 湯川 崇

専攻科の修了おめでとうございます。

本科と専攻科での7年間はいかがでしたでしょうか。学校生活での各種行事や課外活動を通して経験した楽しかったことや苦労したことなど、さまざまなできごとが懐かしく思い出されていることと思います。

今回修了されるみなさんには、令和初の修了生となります。残念なことに令和になってから、台風や水害、地震、火災、そして新型ウイルスの感染拡大など、これまでにない規模の災害が立て続けに起こっています。少子高齢化問題も解決の見込みはたっていません。みなさんがこれから生活していく社会は、経済成長を続けてきたこれまでとは違い、先の読めない不安なものになるかもしれません。

4月からは社会人としての生活が始まります。これからは、辛いことに直面してもまわりに頼る人がいないこともあるでしょう。どんなときにも高専で身につけた知識と経験を武器に、自分の持ち味を発揮して乗り越えていくものと確信しています。

高専生活を終えて

ビジネスコミュニケーション学コース
2年 加井 佑佳

本科から専攻科までの長い高専生活が終わりを迎え、清々しく感じると同時に、この文章が手元に届く頃には新しい生活が始まっていると思うと不思議な気持ちになります。高専生活を通して、私にとっての財産は、先生方や友人と出会いです。卒業を迎えるまで、当たり前ながら良いことばかりではありませんでしたが、友人はそれを時には叱り、励ました。先生方は、授業だけでなく、授業外にも相談や受験や就職試験対策等に真摯に対応して下さいました。特に本科高学年からの研究活動においては、きめ細かな指導をしていただき、自分の納得する論文を仕上げることができました。かけがえのない時間を高専で過ごせて良かったと心から思っています。

新社会人になってからも感謝の気持ちを忘れずに、これまでの学びを糧に現状に甘んじることなく、成長していきたいと思います。今までありがとうございました。

令和元年度 卒業生・修了生の進路状況と キャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育担当責任者 松尾 忠利

令和元年度の本科5年生および専攻科2年生の進路決定状況を下表に示します。本科5年生の進路状況は、例年と同様、進学と就職がほぼ半々でした。売り手市場を反映して、就職希望者に対する求人件数は、今年度も約28倍と好調でしたが、大企業の就職に関してはますます狭き門となっています。また、進学先では本校専攻科に進学する学生数が昨年度よりも20%増えました。専攻科2年生では約20%の学生が大学院に進学しました。なお、年度末までには、卒業生・修了生のほぼ全員の進路が決定する見込みです。

キャリア教育支援室として、学内での公務員模擬試験、就職ガイダンス、面接等指導講習会の実施、学外での「高専生のための仕事・業界研究セミナーへの引率等の学生への支援を行いました。従前は本科4年生と専攻科1年生を対象としていた高専協力会企業との懇談会を、今年度は全学生を対象に「高専キャリアフォーラム」として11月に開催し、多くの学生が参加してくれました。また、キャリア教育担当責任者として、多くの大

学や企業の担当者と面談する機会があり、その度に「興味のある学生がいる場合は、ぜひ、ご推薦をお願いします。」と言われ、社会からの高専生の評価の高さを改めて認識しました。これは、基礎的、専門的な学力が高いことに加えて、何事にも真面目に取り組む素直な性格、協調性やコミュニケーション能力の高さ等、仕事を遂行する上で資質の高さが評価されているのだと思います。一方で、就職活動を行っている学生と、福島高専の学生の採用に積極的な地元企業の間には明確なギャップが感じられることもありました。また、経団連の就職協定廃止に伴い、学生の就職活動開始の時期が早まることが予想されるため、上述した就職等の支援活動の開催時期や内容を検討したいと考えています。

卒業生の活躍によって築かれた高い評価に起因する現在の良好な進路状況に甘んじることなく、来年度もキャリア教育支援室として学生の就職活動がスムーズに進むように支援を継続します。

本科生の進路(令和2年3月卒業)

() は女子学生

| 区分 | 機械工学科 | 電気工学科 | 物質工学科 | 建設環境工学科 | コミ情報学科 | 計 |
|------|-------|-------|--------|---------|--------|---------|
| 卒業者数 | 40(1) | 41(5) | 36(21) | 36(13) | 37(34) | 190(74) |
| 進学者数 | 18(0) | 19(1) | 21(10) | 20(6) | 10(9) | 88(26) |
| 就職者数 | 20(1) | 20(4) | 14(10) | 16(7) | 20(18) | 90(40) |
| その他 | 2 | 2 | 1(1) | 0 | 7(7) | 12(8) |

専攻科生の進路(令和2年3月修了)

() は女子学生

| 区分 | 産業技術システム工学専攻 | ビジネスコミュニケーション学専攻 | 計 |
|------|--------------|------------------|-------|
| 修了者数 | 22(4) | 2(2) | 24(6) |
| 進学者数 | 4(0) | 0 | 4(0) |
| 就職者数 | 18(4) | 2(2) | 20(6) |
| その他 | 0 | 0 | 0 |

学生会



学生会生活を振り返って

学生会長 機械工学科 4年 松本 安基良

1年間、学生会長を務めてまずははじめに思うことは「辛かったな」ということです。普通、はじめに辛かったなという感想を抱くことはあまりないと思いますが、しかし、忙しく、勉強以外でもやることの多い4年生で学生会長という大役を任せることは、やりがいもあれば不安なこと也有ったこともありました。なのでシンプルに「楽しかった」や「成長できた」などというよりは「辛かった」の方が合っているのかなと思います。

しかし、良い思い出もたくさんありました。特に東北・全国の高専生とお話をできた交流会は自分の学校のことを客観的に見れ、他高専についても学べるいい機会でした。文化が違う、考え方も違う人たちでも「高専生」というだけで特別な一体感が生まれ自然とコミュニケーションをとることが出来ました。

頼れる後輩や先生方に支えられ、ここまで来れたことにとても感謝しています。これまでの経験を糧に最後の1年を充実なものにしたいと思います。最後に、後輩の皆さん方へ、学生会の活動は辛く苦しいものでしたが、授業では得ることのできない経験も多くさせて頂きました。皆さまのこれからの中高専生活が充実したものになることを願い、振り返りの言葉とさせて頂きます。

令和2年度学生会執行部役員選挙結果

| 役職 | 学年 学科 | 氏名 |
|-------|-------|--------|
| 会長 | 4 M | 松本 安基良 |
| 副会長 | 2 M | 小出 光 |
| 副会長 | 2 B C | 岩崎 由芽花 |
| 書記 | 4 B C | 草野 真輝 |
| 書記 | 1 T | 上遠野 和 |
| 会計 | 3 M | 円谷 優介 |
| 会計 | 3 T | 二瓶 洋哉 |
| 会計 | 2 M | 石井 拓翔 |
| 会計 | 2 T | 阿部 実菜子 |
| 監査 | 3 B C | 伊藤 千紗 |
| 監査 | 2 M | 鎌田 葉 |
| 監査 | 1 T | 河内 琉生 |
| 監査 | 1 T | 鈴木 悠斗 |
| 広報・涉外 | 3 B C | 片岡 佑記 |
| 広報・涉外 | 3 C | 菅野 長貴 |
| 広報・涉外 | 2 T | 高橋 昂大 |
| 広報・涉外 | 1 B C | 西山 史菜 |

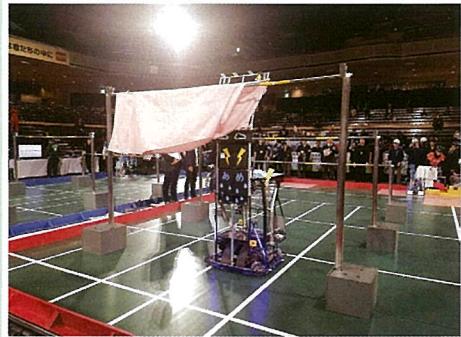
※学年学科は令和元年度

全国高専ロボットコンテスト

学生代表 相原 空歩

令和元年11月24日（日）、両国国技館にて第32回アイデア対決・全国高専ロボコンが開催されました。本校のAチームは、東北地区大会で優勝し、全国大会出場を決めています。今回の競技はTシャツ・バスタオル・シーツを、フィールドに設置された高さの違う3本の物干し竿にロボットが干すものでした。本校のロボットは、スクリュー機構を使ってTシャツを連続して干す手動ロボットと、物干し竿までの最短経路を素早くたどり、バスタオルとシーツを干す自動ロボットの2台で構成されています。全国大会のテ스트ランでは満点を獲得する仕上がりを見せましたが、奈良高専と対戦した1回戦では環境が違っていたためか、本来のパフォーマンスを披露できず、5対20で敗れました。

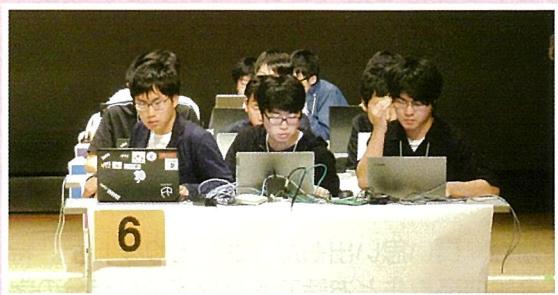
このようにロボットコンテストに出場できましたことは、日頃から多大なる応援とご支援をいただいた保護者の皆様、そして地域の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。



全国高専プログラミングコンテスト

プログラミングコンテスト指導教員 小泉 康一

令和元年10月13日（日）、14日（月）の両日、宮崎県都城市総合文化ホールにて第30回全国高専プログラミングコンテストが開催されました。本校は競技部門の本選参加を行いました。10月12日からの台風19号に備えて往路の飛行機欠航が決まったため、前々日の11日から陸路にて、約1日の行程で移動を行いました。現地は台風の影響が少なく予定通りの実施となりました。選手は4年電気工学科 菅野聖真君、小宅大地君、園部航生君の3名でした。競技部門の内容は、昨年度と同様の他高専と対戦形式での陣地とりパズルゲームで、各チームが作成したコンピュータプログラムに対戦させる形式での4校ごとのリーグ戦で、リーグの1位のみが上位に上がる形式でした。対戦結果は、1回戦リーグ4校中1位で、2回戦リーグ4校中4位で2回戦敗退となりました。応援してくださった皆様には御礼を申し上げます。



全国高専デザインコンペティション参加報告

デザインコンペティション指導教員 齊藤 充弘・橘 一光

令和元年12月7日（土）～8日（日）に東京都大田区産業プラザPiOを会場として、全国高等専門学校デザインコンペティション2019が開催されました。今年の構造デザイン部門は「力ミッてる！！」をテーマとして、ペーパークラフトの橋梁模型作成・載荷試験を行う設計競技が行われました。福島高専からは建設環境工学科・都市システム工学科の学生による「名橋『紙粹』」「登龍門」の2作品（2チーム）が参加しました。どちらの模型も載荷試験を最終段階まで成功させて「力ミッてる！！」判定をいただき、全62作品中どちらも同着24位となって健闘しました。

空間デザイン部門では「多文化共生空間の創出」というテーマについて、建設環境工学科5年生4名が共同で、「森の電車の異文化体験」という奥会津の只見線を題材とした作品を考案・製作して応募しましたが、残念ながら予選を通過することができませんでした。



全国高専英語プレゼンテーションコンテスト

英語プレゼンテーションコンテスト指導教員 車田 研一・渡邊エリカ

2020年1月25日（土）・26日（日）両日に国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟国際会議室で第13回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが開催されました。福島工業高等専門学校からはチーム部門（3人チームのプレゼン）でビジネスコミュニケーション学科3年生今野陽菜（こんのはるな）さん・佐川愛海（さがわまなみ）さん・引地良偉夢（ひきちらいむ）さんが出場しました。11月～12月のビデオ審査による予選をみごと通過し、今回チーム部門で久々の全国大会出場の機会を得ました。「Voice of the Sea（海の声）」と題せられた10分間のプレゼンテーションは近年深刻化する海洋への廃樹脂製品の流入の環境への影響を主題としています。会場では練習の成果の熱のこもったスピーチと質疑が間断なく展開されました。惜しくも入賞はできませんでしたが、優勝チームのパフォーマンスなどから多くのことを学べ、有意義な出場経験でした。宮澤泰彦先生には大会引率・スピーチ指導で多大な御支援をいただきました。特に大会前の発音・发声の御指導は、出場者3名にはまさに望外の助力となりました。篤く御礼申し上げます。





表彰

●特別表彰

- TOEIC成績900点以上取得者の表彰
物質工学科5年 Nur Qurratu Aini Bt Kassim
(ヌル クラチュ アイニ ビンティ カシム)
- 機械システム工学科3年 ARIUNAA Burentugs
(アリウナー ブレントゥグス)
- 上記に匹敵する全国レベルの各賞受賞など
- 統計データ分析コンペティション高校生の部:統計数理賞
ビジネスコミュニケーション学科2年 猪狩 信人
- 技術士(建設部門)第一次試験合格
建設環境工学科5年 大河原 海

●学会表彰

- ・社団法人日本機械学会 島山賞
機械工学科5年 中村 怜央
- ・電子情報通信学会東北支部優秀学生賞
電気工学科5年 加藤 大貴
- ・電気学会東北支部優秀学生賞
電気工学科5年 高田 涼平

- ・日本化学会 東北支部長賞
物質工学科5年 小林 基晃

- ・全国高専土木工学会 近藤賞
建設環境工学科5年 山下 大輝

●福島高専協力会長賞

- | | |
|-----------------|-------|
| 機械工学科5年 | 蛭田 大稀 |
| 電気工学科5年 | 吉田 索 |
| 物質工学科5年 | 石川佳納子 |
| 建設環境工学科5年 | 渡邊 智也 |
| 物質工学科5年 | 鈴木 琴乃 |
| 建設環境工学科5年 | 清野 雛 |
| コミュニケーション情報学科5年 | 渡部 翼 |
| ・該当者なし | 中村えみか |
| ・該当者なし | 大塚 知里 |
| ・該当者なし | 斑目 遥斗 |

●同窓会長賞

- ・該当者なし

体育部

◎令和元年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上部(女子)

三段跳 安齊 初佳(2C) 第8位

■バレー・ボーラー(男子)

| | | |
|------|-------|------|
| 福島高専 | 25-12 | 郡山東 |
| 福島高専 | 25-20 | |
| 福島高専 | 17-25 | 福島工業 |
| | 17-25 | |
| | | 1勝1敗 |

■ソフトテニス(男子)

団体戦 2回戦敗退

■卓球(男子)

| | |
|-------|-----------|
| 学校対抗 | ベスト8 |
| ダブルス | 松本 拓樹(2T) |
| | 大石 竜平(2C) |
| シングルス | 松本 拓樹(2T) |

■卓球(女子)

学校対抗 ベスト16

| | |
|-------|------------|
| ダブルス | 渡邊 順子(2BC) |
| | 浅川 胡桃(1BC) |
| シングルス | 渡邊 順子(2BC) |

■バドミントン(男子)

| | |
|-------|-----------|
| 団体戦 | 1回戦敗退 |
| ダブルス | 三本菅由泰(2M) |
| | 若松 恒佑(2M) |
| シングルス | 若松 恒佑(2M) |
| 〃 | 三本菅由泰(2M) |

■バドミントン(女子)

| | |
|-------|-----------|
| 団体戦 | 1回戦敗退 |
| ダブルス | 綱川 理子(2T) |
| | 酒井 瑞衣(2C) |
| シングルス | 佐々木和奏(1C) |

■弓道(男子)

| | |
|-----|-----------|
| 個人戦 | 浅見 圭祐(1E) |
| | 村松 蒼大(1E) |

■弓道(女子)

| | |
|-----|-----------|
| 個人戦 | 大石 愛弓(2T) |
| | 阿部美沙希(2B) |
| | 中町 優希(1T) |

■テニス部(男子)

| | |
|-------|-----------|
| 団体戦 | 1回戦敗退 |
| シングルス | 鈴木 悠斗(1T) |

■テニス部(女子)

| | |
|-------|-----------|
| シングルス | 佐藤 琴心(1B) |
|-------|-----------|

◎第46回福島県ダブルステニス選手権大会(ジュニアの部) 兼 第35回東北インドアテニス選手権大会選手選考会

| | |
|--------|-----------|
| 男子ダブルス | 鈴木 悠人(1T) |
| | 黒木 理都(1B) |
| 女子ダブルス | 佐藤 琴心(1B) |
| | 岩崎由芽花(2B) |

◎第39回福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会

| | |
|---------|-----------|
| 男子シングルス | 鈴木 悠人(1T) |
| | 黒木 理都(1B) |
| 女子シングルス | 佐藤 琴心(2B) |

◎第8回秋季東北地区高専硬式野球交流戦

| | |
|----|---------|
| 福島 | 3-12 一関 |
| 福島 | 3-9 秋田 |

◎第54回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会

| | |
|---------|-----------|
| 男子 | |
| 50m自由形 | 高橋 昂大(2T) |
| | 馬上 隼(1E) |
| 100m自由形 | 高橋 昂大(2T) |

| | | | | | |
|----------------------------|-----------|------|---------------------|-----------|------|
| 200m自由形 | 小針 聰真(2C) | 予選敗退 | 200m自由形 | 工藤 風彩(1C) | 予選敗退 |
| 400m自由形 | 小針 聰真(2C) | 予選敗退 | 400m自由形 | 工藤 風彩(1C) | 第7位 |
| 馬上 隼(1E) | | 予選敗退 | 100mバタフライ | 菅野いちご(1T) | 予選敗退 |
| 100m平泳ぎ | 福原 匠流(2M) | 予選敗退 | 200m個人メドレー | 渡邊 まこ(2B) | 予選敗退 |
| 閔内 悠輝(1E) | | 予選敗退 | | | |
| 200m平泳ぎ | 福原 匠流(2M) | 予選敗退 | ◎第74回国民体育大会(陸上)茨城国体 | | |
| 閔内 悠輝(1E) | | 予選敗退 | 少年男子(高校生) | | |
| 100mバタフライ | 鈴木 悠磨(1M) | 予選敗退 | 400mH | 佐藤 優斗(3C) | 予選敗退 |
| 200mバタフライ | 鈴木 悠磨(1M) | 第8位 | | | |
| 4×100mリレー(馬上, 福原, 鈴木, 小針) | | 予選敗退 | ◎第46回東北総合体育大会陸上競技大会 | | |
| 4×100mメドレー(小針, 福原, 鈴木, 馬上) | | 予選敗退 | 男子 | | |
| 女子 | | | 400mH | 佐藤 優斗(3C) | 予選敗退 |
| 100m自由形 | 渡邊 まこ(2B) | 予選敗退 | 女子 | | |
| 菅野いちご(1T) | | 予選敗退 | 棒高跳 | 上野 美咲(3B) | 予選敗退 |

文化部

■将棋部

- ・第28回高校将棋新人戦県大会
斎藤 剛瑠(2C) 第5位
(東北大会出場)
- ・第20回東北地区高等学校将棋新人大会
斎藤 剛瑠(2C) 第25位

第二試合

4チーム中4位

■吹奏楽部

- ◎第47回福島県アンサンブルコンテストいわき支部大会
金管八重奏 銀賞受賞

■ストリートダンス部

- ・DANCE ALIVE HERO'S ベスト8
- ・いわき街なかコンサートinTAIRA2019 参加
- ・DANCE ALIVE HERO'S ベスト4

◎第12回日本高校ダンス部選手権

- Dance Stadium冬の公式大会 東日本大会
チーム「PASSILLS」 第3位
遠藤駿太(2M)仲野幹太(2T)水庭優成(2B)
チーム「Lyceenne」 ベスト16
春日彩花(2B)志賀あみ(2B)鈴木遙果(2B)

■美術部

- ◎第26回東北地区高等専門学校文化部発表会

絵画

- 渡邊 愛弓(2T) 特選

■ESS&ESD研究会

- ◎全国高等専門学校英語プレゼンテーション
コンテスト(スピーチ部門)

- 今野 陽菜(3B)
佐川 愛海(3B)
引地良偉夢(3B) 出場

■茶華道部

- ・いわき学校茶道連盟第47回合同発表会 参加

■その他

- ◎全国高等専門学校デザインコンペティション2019

- 【空間デザイン部門】
「森の電車の異文化体験」
猪狩智也・佐藤優花・高橋晃樹・平田雄大(5K) 予選敗退

【構造デザイン部門】

- 「名橋『紙粹』」
原田一宏・岩崎幸乃・佐藤玄佳
今井晴子・川上萌依・堺 ゆり 62作品中 同率24位
「登龍門」
高橋怜奈・比佐玲香・水野典治
芳賀海音・浜田 恵・水竹栄人 62作品中 同率24位

■演劇部

- ◎第62回いわき地区高等学校
演劇コンクール 優勝賞一席

■エネルギー研究会

- 2019年度ミスマ学生ものづくり支援 応募・採択

■口ボット技術研究会

- ◎アイデア対決・全国高等専門学校

- ロボットコンテスト2019東北地区大会
・Aチーム「干しに願いを」
五十嵐知士・鈴木海渡・梶朝陽 優勝
(全国大会出場)

- 五十嵐知士・鈴木海渡・梶朝陽 1回戦敗退

- ベスト4
技術賞受賞

- ◎アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト2019全国大会

- チーム名「干しに願いを」
五十嵐知士・鈴木海渡・梶朝陽 1回戦敗退

- 五十嵐知士・鈴木海渡・梶朝陽 1回戦敗退

- ◎全国高等専門学校第30回プログラミングコンテスト

- 【競技部門】
タイトル「そうだ、全探索しよう」
菅野聖真・小宅大地・園部航生 第一試合
4チーム中1位

TOPICS

令和元年度 第54回地盤工学研究発表会（全国大会）にて、専攻科生の諏江あきほさんが優秀論文発表者賞を受賞しました



校長に報告する諏江さん

令和元年7月16日～7月18日に大宮ソニックシティ（さいたま市）で開催された、令和元年度第54回地盤工学研究発表会（全国大会）において、専攻科産業技術システム工学専攻社会環境システム工学コース1年の諏江あきほさんが、「被災確率論を用いた簡易的な液状化マップの構築（地盤防災／液状化部門）」について発表し、35歳以下の研究者、技術者を対象に、論文内容に加え、講演が簡潔明瞭で優れたものに与えられる「優秀論文発表者賞」（発表総数：1081件、受賞対象580件、受賞数132件）を受賞しました。

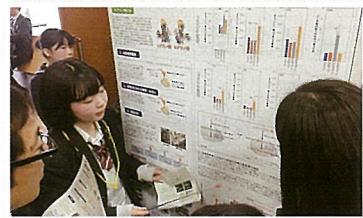
諏江さんは、建設環境工学科5年次で取り組んだ卒業論文の研究成果をとりまとめたテーマを発表し、今回の受賞となりました。（受賞者の中で最年少受賞になります。）

化学・バイオ工学科2年生のグループが平成31年度日本水産学会春季大会において最優秀賞を受賞しました

平成31年3月28日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された「平成31年度日本水産学会 春季大会」において、化学・バイオ工学科2年生の佐藤麻那さん、永井笙楽さん、根本真央さん、宮城泰聖さん（指導教員：柴田公彦教員、青柳克弘教員）のグループが「D-アミノ酸存在下での短期間飼育が二枚貝アカガイに与える影響」という題目で研究発表を行い、最優秀賞を受賞しました。

日本水産学会大会では、高校生による研究発表を、水産学会員による一般のポスター発表と同じ会場で同時にしています。今回の大会では全国の高校から76件のポスター発表がありましたが、最優秀賞はその中で最も優れた研究発表を行った1グループに授与されるものです。

本校では、第2学年の必修科目として「ミニ研究」を行っています。この科目は、教員の設定したテーマに基づいて、低学年の段階から「課題を見つける」「計画を立てる」「調査する」「深く考える」「文章にまとめる」「報告する」「発表する」という、研究する際に必要とされるプロセスを自らが経験することで、主体的に学ぶ能力を高めることを目的にしています。今回最優秀賞を受賞した4人が行った研究は、この1年間のミニ研究の中で行われたものであり、4人が主体的に取り組んだ努力が実を結んだものです。



発表の様子



受賞メンバー

平成31年東北地区若手研究者研究発表会で電気工学科学生が2つの賞を受賞



左：松本さん、右：山田教員

去る3月2日に宮城県名取市の仙台高専名取キャンパスで開催された「平成31年東北地区若手研究者研究発表会」での発表において、電気工学科5年（発表当時）の松本千隼さんが行った発表が、実行委員会選出の「優秀発表賞」と映像情報メディア学会東北支部の「優秀賞」の2つをダブル受賞しました。受賞した発表は以下の通りです。

○映像情報メディア学会東北支部「優秀賞」

○東北地区若手研究者研究発表会「優秀発表賞」

研究題目「近赤外線カメラの波長感度特性分析」（ポスターセッション）

発表者：松本 千隼、指導教員：山田 貴浩

この発表会では、東北地区の高専生・大学生・大学院生・若手技術者等による音・光・電波・エネルギー・システムやその応用に関する102件の研究成果の発表があり、その中から表彰の対象として選出されました。

実行委員会選出の「優秀発表賞」は、オーラルセッション41件の中から7件、ポスターセッション61件の中から7件が選出され、映像情報メディア学会東北支部の「優秀賞」は全102件の発表の中から2件が選出されました。

これまで、この発表会で同研究室では平成28年から3年連続で「優秀発表賞」を受賞しており、研究室としては4年連続の受賞となります。また、「映像情報メディア学会東北支部優秀賞」は平成29年にも同研究室の専攻科生が受賞しており、松本さんは研究室で2人目の受賞です。

令和元年度 東北地区高専専攻科産学連携シンポジウムで最優秀賞を受賞しました

令和元年11月29日～11月30日に仙台高等専門学校（広瀬キャンパス）で開催された、令和元年度東北地区高専専攻科産学連携シンポジウムにおいて、専攻科産業技術システム工学専攻社会環境システム工学コース1年の山部伊織さんが“キトサンを活用した藻類細胞の凝集沈殿処理”について発表し、「最優秀賞」を受賞しました。本シンポジウムでは、発表テーマ178件の中から、最優秀賞1件、優秀賞3件、特別賞2件、ポスター賞などが表彰されました。



山下校長に受賞の報告をする山部さん(右)

第30回日本化学会関東支部茨城地区研究交流会で本校専攻科生が優秀賞を受賞しました



優秀賞を受賞した酒井啓寿さん

令和元年12月20日に多賀市民会館（茨城県日立市千石町）で開催された「第30回日本化学会関東支部 茨城地区研究交流会」において、専攻科産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コース1年の酒井啓寿さんが「メカノケミカル処理によるバナジン酸ビスマスの合成」という題目の研究発表を行い、最上位賞にあたる優秀賞を受賞しました。

日本化学会関東支部茨城地区研究交流会は、日本化学会関東支部主催のもと毎年茨城県内で開催されており、茨城県内や近隣地域の学生や教職員による研究発表が行われています。発表会では大学教員や各種研究機関の研究者による審査が行われ、評価上位のものから優秀賞、奨励賞が数件授与されます。

今回は71件のポスター発表があり、本校からは本科生（物質工学科）及び専攻科生（産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コース）が4件の発表を行いました。

表彰状

第10回福島地区CEセミナーで本校専攻科生がポスター発表優秀賞を受賞しました

令和元年12月21日、郡山市の日本大学工学部にて第10回福島地区CEセミナー（主催：福島化学工学懇話会、共催：日本大学工学部、協賛：化学工学会東北支部）が開催され、本校からは専攻科（化学・バイオ工学コース）及び本科（物質工学科）の学生が1件の口頭発表と5件のポスター発表を行いました。

大学生や大学院生などによる発表の中で、専攻科産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コース2年の河本雄大さんの発表「無溶媒反応によって生成したオルトバナジン酸銀光触媒のキャラクタリゼーション」が高く評価され、ポスター発表優秀賞を受賞しました。河本さんは昨年度開催された第9回福島地区CEセミナーにおいてもポスター発表優秀賞を受賞しており、2年連続の受賞となりました。



ポスター発表の様子



表彰式

福島高専と福島民報社との連携協力協定を締結



山下校長（左）と
福島民報社高橋代表取締役社長（右）

福島高専と福島民報社との連携協力協定式が、令和元年10月29日に本校で行われました。

この協定は、福島高専と福島県の有力地方紙である福島民報社が、連携協力して未来を切り開く人材育成を進め、希望ある豊かな地域づくりに寄与することを目的としています。

式では、福島高専の山下治校長が、「地域の人材育成を効果的に進め、復興を前進させたい」、福島民報社の高橋雅行社長は、「地域の発信拠点として、高専と共同して人づくりや産業づくりに貢献したい」と挨拶がありました。

調印式後には、関係者による懇談会が行われ、山下校長からは、福島高専の概要や教育理念、教育目標、また、現在行われている各種の人材育成事業の紹介や企業との共同研究事業の状況等について説明があり、高橋社長からは、同社で行われている産業人材育成事業の、「ふくしま経済・産業・ものづくり賞」の報告があり、その後、活発な意見交換が行われました。

今後は、福島高専の研究・教育力、福島民報社の情報収集、発信力を相互に生かし、地域に根差した共同事業の発展などを進めていきます。

ISTS 2019参加

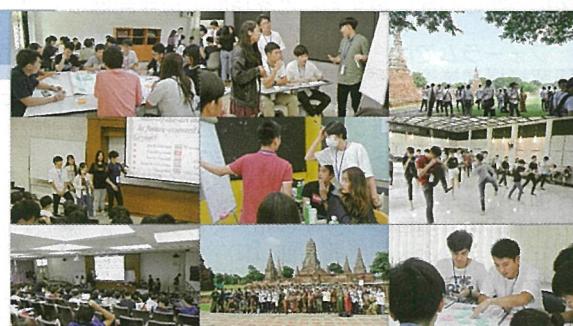
高専生及び技科大生が、2019年10月7日から10月13日の7日間にわたりタイ王国タマサート大学ランシットキャンパスにて開催されたISTS2019に参加しました。ISTS2019は、International Seminar on Technology for Sustainability 2019（持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際セミナー 2019）の略称です。

タマサート大学及び高専機構本部が主催し、長岡・豊橋両技科大が共催して開催されました。福島高専は日本側の開催担当校として日本からの参加者のサポートを行いました。

ISTS2019には、日本からは全国高専生48名、長岡技科大学生4名、豊橋技科大学生6名、合計58名の学生が参加し、タイ・台湾・香港・シンガポールの学生及び教職員を含めて総勢230名が参加しました。

ISTS2019ではグループごとにSDGsに基づいた問題と解決策について話し合い、その結果について最終日にプレゼンテーションを行いました。グループワークの他にはタイ文化体験、アユタヤ遠足などが行われ、異文化を体験することができました。

本校は本年度から3年間にわたりJSTS/ISTSに開催担当校として携わります。2019年7月に開催されたJSTS2019（Japan Seminar on Technology for Sustainability 2019 : 持続可能な社会構築貢献のための科学技術に関する日本セミナー 2019）に続き、来年度も持続可能な社会貢献のための技術について海外協定校と協力しながら、参加学生の技術力を持続可能な社会構築に活かすための意識醸成を目指します。



第4回廃炉創造ロボコンを開催しました

文部科学省及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島高専校長）が主催する「第4回廃炉創造ロボコン」が12月15日（日）、日本原子力研究開発機構楢葉遠隔技術開発センターを会場に、書類選考により選抜された全国の国公私立高専16校17チームと、マレーシア工科大学1チームの計18チームが参加して開催されました。

この廃炉創造ロボコンは、文部科学省「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業：廃止措置研究・人材育成等強化プログラム」の一環として開催されているもので、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせるとともに、汎用的能力はもちろんのこと、事実等に隠れている問題点やその要因を発見し解決すべき課題を設定する力、また、その課題の解決策を導く能力を身につけることを目的としています。

競技は前回に引き続き、福島第一原子力発電所のペデスタイル^{※1}下部に存在する燃料デブリ^{※2}取出しを想定したもので、スタート地点から塩ビパイプを通してペデスタイル内部に入り、そこから3.2m下にあるデブリを模した物体（テニスボール等）を回収し、ペデスタイルの外に運び出すというものです。前回からの変更点として、塩ビパイプに傾斜がつき、デブリ模擬体のうち1つは事前公表されないこととなり、競技の難易度が上がりました。

最優秀賞の文部科学大臣賞は、唯一課題をクリアした鶴岡高専が受賞しました。今回の競技では、18チーム中プラットホームからデブリを取り出すことが出来たチームが3チームと非常に難しい設定でした。その中で、福島高専チームは、デブリ（テニスボール）の回収に成功しました。後は、塩ビパイプをたどって、ペデスタイルの外に出るだけというところで、塩ビパイプにロボットの一部が当たり、デブリ（テニスボール）を落としてしまいました。もう一度トライをみせ、再度デブリを取りだそうと試みましたが、時間切れとなりました。会場からは、大きな声援とため息が洩れました。今回の競技では、残念ながら課題クリアとはなりませんでしたが、大会をおおして、最大に近い声援が送られました。高い技術力が評価され、技術賞である日本原子力研究開発機構理事長賞を獲得しました。文部大臣賞、県知事賞に次ぐもので、今後は、これらを励みに最高賞である、文部大臣賞を今後目指していくと話です。

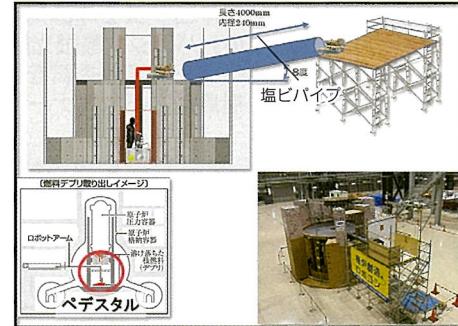
なお、当日は、来賓や一般観覧者、廃炉創造ロボコン関係者等、約300人が来場、新聞等の報道機関から多くの取材があり、廃炉への关心の高さが伺えました。

各受賞校は以下のとおり。

- ◎文部科学大臣賞（最優秀賞）：鶴岡高専
- ◎福島県知事賞（優秀賞）：小山高専
- ◎原子力機構理事長賞（技術賞）：福島高専
- ◎高専機構理事長賞（アイデア賞）：舞鶴高専
- ◎特別賞（株）アトックス賞：熊本高専
- ◎特別賞（日立GEニュークリア・エナジー（株）賞）：一関高専
- ◎審査員特別賞：マレーシア工科大

※1 原子力圧力容器を支えるコンクリート構造物

※2 原子炉の事故で、炉心が過熱し、溶融した核燃料や被覆管および原子炉構造物などが、冷えて固まつたもの。核燃料デブリ。



原子力規制人材育成事業フォーラムを開催しました

平成28年度から原子力規制庁の補助金により進めている、原子力規制人材育成に係る今年度のフォーラムを1月10日に企業・自治体等関係者、本校の学生及び教職員等約40名の参加のもと、本校大会議室で開催しました。

このフォーラムは、今年度のこれまでの成果を地域の皆様へ発表するとともに事業に関係する方々と情報を共有し、今後の事業の展開に資することを目的に毎年開催しているものです。

フォーラムでは、初めに（国研）農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター上級研究員の万福裕造氏が「飯館村を事例とした、環境回復等にみる現状と課題」と題して基調講演を行い、本事業代表者の原田正光副校長が事業概要報告を行いました。

引き続き事例発表として、この事業で新たに開設した授業「環境安全学・演習」の受講報告、複合型インターンシップの実施報告、英國セラフィールド及びJAEA幌延深地層研究センターの施設見学報告並びに学生研究報告が関係学生から行われ、活発な意見が交わされました。

原子力規制庁からのこの事業の補助期間は、令和2年度までですが、本校では、その後も継続して原子力規制に関する人材育成を進めていくこととしています。

事例発表者

- 1) 授業「環境安全学・演習」
4建 山守浩志郎 矢澤啓佑 大矢格真
- 2) 複合型インターンシップ 4M 中田陸斗
- 3) 施設見学報告 英国セラフィールド
専攻科1年 橋本拓実
JAEA幌延深地層研究センター
5建 原田一宏
- 4) 学生研究報告 5C 芳賀さくら 吉田汐里

図書館改修竣工式を実施

本校では、2月28日（金）、図書館改修竣工式を実施しました。同館は、1970年に新築され、以降約50年にわたり学生や地域から親しまれてきましたが、時間の経過とともに施設の老朽化等が顕著となり改修に至りました。同図書館の改修に際しては、通常の図書閲覧機能に加えて学習機能の強化がコンセプトとされており、アクティブラーニングスペースやサイレントスタディールーム等の機能が新たに設けられました。

式では、山下治校長から、「この図書館再生を皮切りに、持続可能な発展を可能とするキャンパスの再生に向けた取組を進めていきたい。今後も次世代技術者の養成に向けた期待に応えていく。」と挨拶がありました。文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部の山崎雅男部長からの祝辞に続き、国立高等専門学校機構の豊岡宏規理事から高専機構を代表しての謝辞が述べられ、関係者によるテープカットを行い改修工事の竣工を祝いました。

本校では、引き続き学校運営の基盤となる安定的な施設整備、教育研究の推進といった面から魅力あるキャンパスづくりの取組を行う予定です。



竣工式後の記念撮影

（前列左から、石原図書館長、国立高専機構豊岡理事、山下校長、文部科学省山崎文教施設企画・防災部長、（株）加地和組根本専務）

退職者挨拶



電気電子システム工学科 山本 敏和

この度、福島高専を退職することとなりました。福島高専には平成10年に着任以来22年間、教職員の皆様にお世話になり、誠に有り難うございました。その間、担任を3回、学生主事補、教務主事補を務めさせて頂き、貴重な経験をさせて貰いました。また部活の面では、サイクリング部、写真部、ロボット技術研究会の顧問でありましたが、微力ながらも寄与出来ていましたら幸いに存じます。

最初に持ったクラスでは、何もかも初体験でしたので、いろいろと行き届かなかつたところがあつたかと思いますが、卒業後も一部の卒業生からは便りがあり、また定期的に有志で集まつていると伺っています。東日本大震災の年には2回目でしかも5年次の担任でした。卒業式が中止となりましたため、クラス全員に健康と将来の発展を祈るメールを送つてお別れした強い記憶が残っています。3回目に担任したクラスは、委員長を始めとしてまとまりの良いクラスで、4年次の学年学科行事では宿泊した中央青年の家で、幸運なことに雪を被つた美しい富士山を望むことができました。

福島高専での教員生活に関しては限りなく様々な事を思い出されます。3月末で退職ですが、新年度には再雇用者として福島高専での授業、実験等の一部を担当致します。現在、新型肺炎が世界中で心配されており、大震災以来の大きな不安が生じておりますが、どうか平穡に収まり、教職員の皆様、学生の皆さん、保護者の方々がご健勝でご発展されます事をお祈り致します。



化学・バイオ工学科 尾形 慎

福島高専へ着任後、本当にあつという間の7年半でした。そして、いわきでの教員生活をあつという間に感じさせてくれたのは、紛れもなく福島高専生との出会いがあつたからだと思っています。バイタリティーがあり、常に向上心を持ち続けている皆さんに出会えたことは、私の財産となりました。高専教員生活で関わつた全ての学生諸子に心よりお礼申し上げます。今後は、遠方からにはなりますが皆さんのがんばるご活躍を願っております。

新任教職員紹介



ビジネスコミュニケーション学科 高木 信太郎

今年1月に着任した高木信太郎と申します。

これまで、大学の研究室から、民間企業の研究所、外務省、大使館などへの出向を繰り返してきました。昨年、英国から大学の研究室に戻つた後、縁あつてこちらに赴任することとなりました。

専門としては、国際経済学、国際経済法、国際政治経済論といくつかの学問分野にまたがっている、国際通商体制に関する研究をしております。なかでも、インフラ輸出に関わる政府調達という分野を中心に扱つています。

学生時代は陸上競技（長距離）をやつていましたが、ここ数年はハーフマラソンをゆっくり走るのがやつです。そのうち、ジョギング等、再開できればと思つています。

よろしくお願ひいたします。



都市システム工学科 浅野 寛元

1月27日に、高専REIMというインフラメンテナンス人材育成プロジェクトで都市システム工学科に特命助教として着任した浅野寛元と申します。

私は県外出身であることから福島県さらにいわき市の土地勘がなく、学校という組織で働くことも初めてなので、わからないことがありますばかりですが、徐々に慣れていくればと思っております。

以前は、建設コンサルタントに勤務しており、ここ数年は橋梁の点検や補修設計などをしていたことから、このプロジェクト推進に微力ながら貢献できればと思っております。短い間ですが、どうぞ宜しくお願ひ致します。



総務課調達係 園部 智樹

本年3月1日付で総務課調達係に着任しました園部智樹と申します。

いわき市内の高校を卒業後、東京で大学生として4年間、社会人として2年間過ごしておりましたが、今回縁あって福島高専で働くことになりました。

6年ぶりにこの地で生活を始められるということで、非常に嬉しく思つております。

早く仕事に慣れていく、福島高専のために尽力していきたいと思っておりますので宜しくお願ひ致します。



ビジネスコミュニケーション学科 ファティインアミナ

昨年10月にビジネスコミュニケーション学科に着任した、マレーシア出身のファティインアミナと申します。助教として、主に開発学と経済学の授業などを担当しています。

昨年の3月に立命館大学の博士課程を修了しました。専門分野は健康経済学で、主にシステムダイナミクスを用いたマレーシアの公共病院の需給管理のモデリングを対象としています。こちらで開発学を教えることで、開発経済学と現在のグローバルな問題の理論に関する新たな知識を深めています。それは、私の研究対象である気候変動、持続可能な開発問題に対処するための統合システムダイナミクス、計量経済学に当たる部分があり、研究の幅が広がりました。ここで仕事をはとても楽しく、また私の国の文化を皆さんと共有できることに喜びを感じています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されますが、平成26年4月の入学者からは所得制限を設けた新制度が実施されております。

支給期間は原則として通算36ヶ月となっております。また、保護者の所得に応じて一定額が加算される加算支給制度もあり、制度改正に伴い、令和2年4月から支援が拡充されます。

なお、就学支援金は保護者全員（学生の親権者）の「市町村民税所得割+都道府県民税所得割の合計額」を基準に支給されるため（令和2年4月時点、令和2年7月分以降の所得判定基準は変更となります。）、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援金制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせください。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0870

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。（令和2年4月より、高等教育の修学支援新制度へ移行）

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。

（ただし、授業料の各期の納付期限前6ヶ月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。※令和2年度については、制度が変更となる可能性があります。）

経済的理由による授業料免除の申請時期は、例年前期分は3月下旬、後期分は9月中旬となっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配付し、併せて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については、掲示・メール・放送および学級担任・専攻科コース長からお知らせします。

行事予定(前期)

4月

- 3日（金） 入学式（本科・専攻科・編入学生）
新入寮生歓迎夕食会
6日（月） 始業式
新入生オリエンテーション
交通安全教室（1年）
専攻科ガイダンス（専1）
7日（火） 前期授業開始
9日（木） 特研オリエンテーション（専1）
10日（金） 工学実験ガイダンス（専1）
15日（水） 全校・校外清掃日
16日（木） 定期健康診断（休講日）
18日（土） スタディーサポート試験（1年）
22日（水） 基礎学力標準試験（化学）
（工学系4学科の2年生対象）
27日（月） 開校記念日
29日（水） 公開授業・学生総会

5月

- 12日（火）～15日（金） 専攻科推薦入試願書受付
13日（水） 後援会総会・学級懇談会・
寮生保護者個別面談会
23日（土） 専攻科推薦入試

6月

- 2日（火）～4日（木） 前期中間試験期間
9日（火）～10日（水） 前期中間試験期間
8日（月）～12日（金） 専攻科学力入試願書受付
20日（土） 専攻科学力入試

※新型コロナウイルス感染対策のため変更されています。

7月

- 1日（水） 交通安全教室（3年）
3日（金）～5日（日） 東北地区高専体育大会
8日（水） 消費生活安全教室（5年）
15日（水） インターンシップ事前指導会（4年）
30日（木）～8月5日（水） 前期期末試験
31日（金）～8月4日（火） 編入学願書受付

8月

- 5日（水） 集会・専攻科集会、教室整備
6日（木） 補講日
6日（木）～9月15日（火） 夏季休業
7日（金） 閉寮
10日（月）～15日（土） 学校閉鎖
16日（日） 開寮
31日（月） 登校日（1～3年生）

9月

- 1日（火） 編入学試験
16日（水） 集会・専攻科集会
17日（木） 授業開始
25日（金） 体験入学準備日（休講日）
26日（土）～27日（日） 体験入学
29日（火） スタディーサポート試験
（対象クラスのみ）
校内体育大会（午後）
30日（水） 校内体育大会

編集後記

新型コロナウイルスの影響がこれまで及ぶとは想像しませんでした。本報の原稿依頼をお願いした頃は台風や大雨による自然災害のため例年掲載していた磐陽祭の記事も見送りせざるを得ない状況でした。さらに今般、新型コロナウイルスの影響により本科卒業式・専攻科修了式までが取り止めになるとは全く想像もできませんでした。当初計画を立てた紙面とはだいぶ違ったものになりましたが、原稿をお寄せいただいた皆様のおかげでどうにか発行に漕ぎつけることができました。本当にありがとうございました。

